

雪害にあわないために

気象庁の3か月予報（11/21時点）によると、西日本の日本海側における降雪量（12～2月）は平年比で多くなる確率が10%、平年並みが30%、低くなる確率は60%となっています。

しかしながら京都府では令和3年度には中北部で、令和4年度には全域で大規模な雪害が発生し、多くの施設が被害にあっていることから油断は禁物です。

本年もこれから冬を迎えるにあたり、本格的な降雪・積雪となる可能性があることから、以下の技術情報を参考に、パイプハウスや茶被覆棚の倒壊を防ぎましょう。

パイプハウス

① 降雪前

- ・ 作物を栽培していないハウスはビニールを外す。
- ・ ブレースや筋交いの留め金具に緩みがないか点検。
- ・ 中柱やタイバー・クロス等による補強。
- ・ 谷樋や排水路等の掃除。
- ・ 暖房機の動作確認に加え、燃料を満タンにしておく。



タイバーによる補強

② 降雪後

- ・ こまめに除雪する（人命最優先で無理はしない、作業は必ず複数名で行う）。
- ・ ハウス内部の気密性を高めて暖房によりハウス内温度を上昇させる。
- ・ 散水融雪ではハウス側面に積もった雪に散水する。
- ・ 除雪が追いつかず、更なる積雪が予想される時はビニールを切断し倒壊を回避（※）。
- ・ 除雪は①ハウス肩部、②屋根部、③サイド部の順で行う。
- ・ 屋根部まで積雪している場合は、重みが偏らないよう両側均等に除雪する。

※緊急の損害防止措置としてビニールの切断・除去を行う場合

ハウスが耐えられないほどの積雪となり、通常の除雪作業だけではハウス本体の倒壊を防止することが難しいときは、緊急の損害防止措置としてビニールの切断・除去が有効です。

その場合は、必ず事前に京都府農業共済組合各支所へご連絡ください。

【留意点】

切断した被覆材は損害評価時に必要なため、廃棄せずに保管ください。

茶被覆棚

降雪前

- ・ 冬期には、被覆資材を支柱から撤去。
- ・ 被覆資材を残す場合は、支柱に束ねてしっかり固定しなおす（紐の劣化も点検）。